

設楽の城峯めぐり

― 笠井島城編 ―

かさいじまじょう



笠井島城址

通称 城山全景

豊邦の笠井島地区と桑平地区の境に位置するこの城は、通称城山と呼ばれ、当貝津川と栃洞川の合流部右岸に突出する尾根上に築かれている。

三方を急峻な斜面に囲まれた天然の要害で、城址から集落をよく望むことができ、足助方面につづく街道を監視できる適地になる。

西側から川に伸びる細長い尾根の先端は高台となつて、本曲輪が構えられ、東西の腰曲輪で守られている。

西腰曲輪に虎口が築かれ、その先を堀切と豎堀、その西に二の曲輪が築かれ、山と分断する空堀となっている。

山奥の小規模な孤塁に、様々な防御構造が残されているのは貴重な遺構といえる。

城主・城歴等是不詳で、菅沼氏の領域や奥平氏の小田城が近い、ため、両氏にかかわる人物が守っていたと思われる。

(愛知県文化財保護指導委員

加藤 博俊)